

はじめてのスピノザ(1632～1677)

★現代人の「思考のOS」を書き換えるスピノザ哲学のエッセンス★

□すべての個体はそれぞれに完全である。

□善悪は物事の組み合わせで決まる。

□「力」こそ物の本質である。

□自殺や拒食の原因は人の内側にはない。

□一人ひとりの自由が社会の安定につながる。

□必然性に従うことこそ自由である。

□自由な意志など存在しない。

□意志は行為を一元的に決定しない。

□真理の外側に真理の基準はない。

□新しい主体のあり方が真理の真理性

[目次]

はじめに

1. 組み合わせとしての善悪

1)スピノザとは誰か、3つの名前

ベントウ、祝福される、執事

バールーフ←ユダヤ教から破門

ベネティクス→哲学者は命の警戒をしつつ真理を追求する。普遍性を追求する

## 2) 哲学する自由

著作 2 冊、死後、弟子が復元

デカルド研究、神学、政治論

エチカ、1675、1677 死

## 3) 神即自然 → 汎神論

絶対的、外部がない、無限

神学ではない

自然科学に近い

## 4) 『エチカ』はどんな本か

倫理学 今いる場所で、どのように生きるかの学問 価値の基準

構成について

数学的論証 形式で、

はじめに用語の定義が示され、

論述のルールとしての公理を

いくつもの定理として示し

そして、その証明

さらに、備考という補足説明をする

第1章 神について

第2章 精神の本性及び起源について

第3章 感情の起源及び本性について

第4章 人間の隷属あるいは感情の力について

第5章 知性の能力、あるいは人間の自由について

第四部 人間の隷属あるいは感情の力についてから読んでみる

第一部で神が定義されたあと、

第二部では物理学的・生理学的な仕方で

人間の精神と身体が議論され、

続く第三部では感情の本質が論じられ、

それを引き継ぐ第四部です。

自分の感情の赴くままに働いている人間は、自分のことを自らの力のもとにあって自由だと思っているかもしれないが、そうではないだろうという。

## 完全と不完全

一般的観念論としての偏見

したがって全ての個体は、それぞれに完全である

それ自体として良いものも悪いものもない

## 5)組み合わせとしての善悪

音楽については

憂鬱の人にとって 良い

落ち込んでいる人にとって 悪い

聾者にとって 良くも悪くもない

善悪は組み合わせによって生ずる

## 6)善悪と感情

喜びと悲しみ

妬みの感情

活動能力を高める

自然界には完全/不完全の区別も、それ自体としての善も悪もない  
と言うスピノザの考え方を見てきました。

では、それが存在しないのならば、我々は何を指針に生きていけば良  
いのか、

そこで出てきたのが、組み合わせとしての善悪と言う発想です。

活動能力の増減と言うものに、生きる上での 1 つの基準を求めたわけ  
です。

活動能力と言うのは、つまりは力です。

自分の持つ力が組み合わせによって、上がったリ下がったりする。

まず、最初に見ておきたいのは、ラテン語で、コナトゥスと言うスピノザ  
の有名な概念

あえて、日本語に訳せば努力となってしまうのですが、これは頑張っ  
て何をするという意味ではありません。

ある傾向を持った力と考えれば良いでしょう。

コナトゥスは、個体を今ある状態に維持しようとして働く力のことを指し  
ます。

医学や生理学で言う恒常性(ホメオスタシス)の原理に近い、と考えれば良いでしょう。

例えば、私と言う体の中の水分が減ると、私の中に水分への要求が生まれ、それが意識の上では「水が欲しい」と言う形になります。

私たちの中では、いつも自分の恒常性を維持しようとする傾向を持った力が働いています。

コナトウスを定義した定理が次のものです

おのこのものが自己の有(存在) に固執しようと努める努力は、そのものの現実的本質に他ならない

## 2. コナトウスと本質

自分の存在を維持しようとする力

ある傾向を持った活動、努力

1)コナトウスこそ物の本質

2)変状する力 刺激による変化

人によって異なる反応がある

3)多くの仕方で刺激されうる状態になること → 働きかける

エソロジイ 生態学

人生を豊かにする

賢者はモノゴトを楽しめる

学習して自分の力とする

4)コナトウスと「死」の問題

自殺は圧倒的に外部に原因がある

別物になることが死

5)万物は神の様態

神は自然であり、実態である

個物は変状である

個物はそれぞれの属性の存在で、

神が存在したり作用したりする力を表現している＝個物は神の力(自然の法則)を表現している

6)神は無限に多くの属性から成る

神の実体表現→個物の様態 変状

神の属性としての精神と身体

## 7)コナトウスと社会の安定

### 3. 自由へのエチカ

#### 1)「自由」とは何か

必然性に従うこと 自分が原因 能動

試行錯誤して実験、学習していく

自由の反対が強制

外部の強制による 他者が原因 受動

原因は結果の中で自らの力を表現する

神(原因) → 万物で、個体(結果)

#### 2)自由の度合いを高める倫理学

受動を減らし、能動を増やす

#### 3)自由な意志など存在しない

意志 → 意識 → 言語 → 自由

#### 4)行為は多元的に決定されている

実践的

5)現代社会にはびこる意志への信仰

4. 真理の獲得と主体の変容

1)スピノザ哲学は「もうひとつの近代」を示す

2)真理は真理自身の基準である

3)真理と向き合う

4)物を知り、自分を知り、自分が変わる

5)主体の変容と真理の獲得

6)AI アルゴリズムと人間の知性

5. 神の存在証明と精錬の道

1)懐疑の病と治癒の物語

2)真理への精錬の道

3)精錬の道は自ら歩まねばならない

4)対話相手としてのスピノザとデカルト

おわりに